

折々の記 No201：輝男の内憂外患！（平成24年11月2日記）

1 父の緊急入院対応→長期不敗体制の構築を

さる20日父が重症急性膵炎のために救急車で搬送され、緊急入院した。当日夕刻の母からの電話では今一状況が不明であったが、主治医からの電話で手術等を要する重傷であることが窺われた。21日日曜日午前の用務を終えて午後早くにでも帰省する積りだったが、羽田で搭乗したのは夕刻で

あり、鹿児島実家到着は23時頃であった。母も安心したようだ。翌日からは病院通いであった。父の病状説明を受け、必要な処置をし、妹や孫達に状況をメールした。

高齢でもあり、一時は危険域にあったが、驚異的な回復力を示し、31日帰京する時には、人工呼吸器を外し、アミラーゼ等のデータも改善し、普通に話せるようになった。

何時まで入院することになるのか、退院するとしてもどのような状況で帰宅するのか等、現時点では予断することは出来ない。然しながら、長期不敗の体制を如何に構築するかが重要である。妹を含め3名でどう対処するか、考えねばならない。

今まで、両親共に体力的には問題あるとしても一応の生活は可能であったし、認知も殆どなく、そういう意味においては恵まれて居たのだろう。これからが正念場だ。



父の緊急入院に際して作詩(11月4日追記)

呻吟再襲夜深時
遠子慌忙万里馳
活眼朱顔頻握手
千秋大息問帰期

<http://yamashita-teruo.my.coocan.jp/poem/poem.htm>

2 領海侵犯の常態化を許すまじ！

中国の尖閣諸島接続水域の航行及び領海侵犯が後を絶たない。中国国内においては暴徒化し日本企業を襲撃させ、日本製品の不買運動を展開し、世界に向けては己の正当性を強弁している。そして、尖閣周辺においては海洋監視船や漁業監視船をこれ見よがしに航行させ、時折領海を侵犯し、我が物顔に振る舞っている。

これに対して、我が国政府、野田政権は、監視の継続・注意喚起と只管なる抗議を繰り返すのみであって、何ら有効な対抗策を講じていない。

これが国家と云えるのか、実力を行使する位の気迫で対応すべきだ。それが毅然たる対応だ。首相はじめ政治家は言葉に責任を持たねばならない。綸言汗の如しである。

このまま手を拱いて居たら、何時しか尖閣は中国領となってしまう。中国は日本が何もしないのを看とって、このような挙に出ている。日本の世論も怒るべきだし、

社会の木鐸をもって任じるマスコミもそれなりの対応をすべきなのだ。

日本人は一体どうなってしまったのか？この為体は情けない。日本人のアイデンティティはどうした。気概はないのか？

一時的な経済的ロスは甘受すべきだし、如何なる圧力にも屈しないというメッセージを発する必要がある。経済問題は我慢比べでもある。暴徒の襲撃を回避するためとはいえ、尖閣は中国領との張り紙を貼付する企業は国辱ものだ。（9月18日上海ユニクロ）従業員の独断というが、果たして？！！

政局、解散問題ばかりが話題となっているが、尖閣問題は喫緊の課題だ。日本が将来に亘って国際社会で名誉ある地位を保てるかどうかの試金石でもある。政治家諸氏の猛省を促したい。

